# JA 青年組織
# ポリシーブック作成・活用の手引き

全国農協青年組織協議会

2020 年3月

# JA 青年組織綱領

我々JA 青年組織は、日本農業の担い手として JA をよりどころに地域農業の振興を図り、JA 運動の先駆者として実践する自主的な組織である。

さらに、世界的視野から時代を的確に捉え、誇り高き青年の情熱と協同の力をもって、国民と豊かな食と環境の共有をめざすものである。

このため、JA 青年組織の責務として、社会的･政治的自覚を高め、全国盟友の英知と行動力を結集し、次のことに取り組む。

**1．われらは、農業を通じて環境･文化･教育の活動を行い、地域社会に貢献する。**

JA 青年組織は、農業の担い手として地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて地域社会において環境・文化・教育の活動を行い、地域に根ざした社会貢献に取り組む。

**1．われらは、国民との相互理解を図り、食と農の価値を高める責任ある政策提言を行う。**

人間の「いのちと暮らし」の源である食と農の持つ価値を高め、実効性のある運動の展開を通じて、農業者の視点と生活者の視点を合わせ持った責任ある政策提言を行う。

**1．われらは、自らが JA の事業運営に積極的に参画し、JA 運動の先頭に立つ。**

時代を捉え、将来を見据えた JA の発展のため、自らの組織である JA の事業運営に主体的に参加するとともに、青年農業者の立場から常に新しいJA運動を探求し、実践する。

**1．われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。**

JA 青年組織のネットワークを通じて営農技術の向上を進めるとともに、仲間との交流によって自らの新たな可能性を発見する場をつくり、相互研鑽を図る。

**1．われらは、組織活動の実践により盟友の結束力を高め、あすの担い手を育成する。**

JA 青年組織の活動に参加することによって、個人では得られない達成感や感動を多くの盟友が実感できる機会をつくり、このような価値を次代に継承する人材を育成する。

（注釈）本綱領は、JA 全青協設立の経過を踏まえて「鬼怒川5原則」「全国青年統一綱領」の理念を受け継ぎ、創立50周年を契機に現代的な表現に改めるとともに、今後目指すべき JA 青年組織の方向性を新たに盛り込んだものである（平成17年3月10日制定）。

# Ⅰ．ポリシーブックとはどのようなモノか

## 1. まずは JA 青年組織綱領を読んでみよう。

## 2. それから、私たちの目標や将来像を示してみる。

JA 青年組織綱領を踏まえて
- ・どういう農業をしたいのか
- ・どういう JA にしたいのか
- ・どういう地域にしたいのか
- ・どういう未来にしたいのか

**ゴールを決めよう！**

## 3.「1と2」を踏まえ、課題（不安や不満も）を文字にし、解決策を示す。

**例えばこんな場合・・・・**

（1）鳥獣被害が深刻化し、経営を圧迫している。
（2）青年部内で話をすると、他の盟友も同じ問題を抱えていた。
（3）講習会で学んだ技術を自分の農地で試し効果があったが、鳥獣による被害が他の農地に移った。
（4）自分だけ実施しても解決にならないので、JA を通して他の農家と一斉に対策してはどうかとなった。
（5）JA に相談したところ、農家だけでなく地域住民全体で取り組む必要があることがわかった。

**このような状況を「ポリシーブック」にまとめると、以下のようになります。**

**＜JA＊＊＊青年部　ポリシーブック＞**

**【基本的考え方】**中山間地の農業を支え、地域活性化を目指す。☜ゴール

**【課　題】**　鳥獣被害が深刻化し、経営を圧迫している。

**【解決策】**

（個人・青年部でやること）講習会で知識や技術を学び活用する。
（JA と一緒にやること）罠の設置、見回り等を地域全体で取り組む。
（行政に要望すること）　地域住民に対策の必要性周知を要望する。

# Ⅱ．ポリシーブック作成のすすめ方

## （１）盟友の課題からスタートする

ポリシーブックのスタートは、あくまで**“盟友が日ごろ抱えている課題”**です。単組版・支部版ポリシーブックに出てくる課題は、農政・国際問題等の“お堅い”課題でなくても大丈夫です。「▽▽▽地域では用水路が詰まりやすい」などといった、現行の政策・制度にとらわれない、現場の課題（困っていること）をどれだけ出せるかがカギとなります。

## （２）課題の共有化に意義がある

ポリシーブックを上手く活用している組織は、
①個人による課題の洗い出しと、②部員同士による話し合いが徹底できていることが多い傾向にあります。
そのような組織の部員からよく聞くのは「仲間の悩みが聞けたし、自分が悩んでいることは一人だけの課題ではないことが分かった。」という声です。
まずは課題を**“みんなで話して文字にして考え”**部員の間で共有し、本質的な課題を見つけ出す話し合いをじっくりとやってみてはどうでしょう。

## （３）まずは自分達で取り組むこと

課題を整理出来たら、解決策を考えます。この際、**“まずは解決に向けて自分達でできることはないのか”**を考えましょう。
逆に言えば、盟友から出てきた課題を共有・整理し「自分達で解決策が実行できるような課題」に設定することも重要となります。

## （４）次は JA と取り組むこと

自分達だけでは解決できない課題や、JA の協力があった方が解決に向けてさらに効果があるような場合には、「JA と協力してやること」を次に考えます。JA という“自分達の組織”を上手く活用することを考えるのが、課題解決への近道です。
忘れてはならないのは、**“「自分達だけで△△△までやるので、□□□を一緒にやれないか」とうのがポリシーブック”**であり、青年部だということです。青年部盟友・組合員の責任として「何をやるのか」。JA を業者のように使うことだけはやめましょう。

（５）自分達ではどうにもできないことは行政へ

③、④で解決策が出そろえば、あえて行政への要望を作る必要はありません。

自分たちでどうにもできない場合、法律や条例、予算・税制といった課題は、立法機能を持つ国会議員や制度設計を行う農林水産省に要望し、現行制度の運用に関する課題は地方自治体に要望し、解決を目指します。

ここでも大切なのは、“「自分達で△△△、そして□□□をやるので、◇◇◇については行政で何とかしてほしい」と言うスタンス”です。

すぐに、制度や予算の問題に帰着してしまいがちですが、その前に自分達でできる解決策を実践するからこそ、単なる“物乞い的要請”にならない、JA 青年部らしい要請といえます。

PBの作成にあたって、前述のとおり解決策を3つの項目に分けました。「自らやること」「JA と共にやること（JA に要望すること）」「行政に要望すること」、いわゆる自助・共助・公助の3つの解決策から成るのが JA 青年組織版PBの特徴です。これらは、「自分たちでまず取り組むこと」「自分たちでできない範囲なので、お願いすること」の2点に分けることもできます。（PBの2面性）

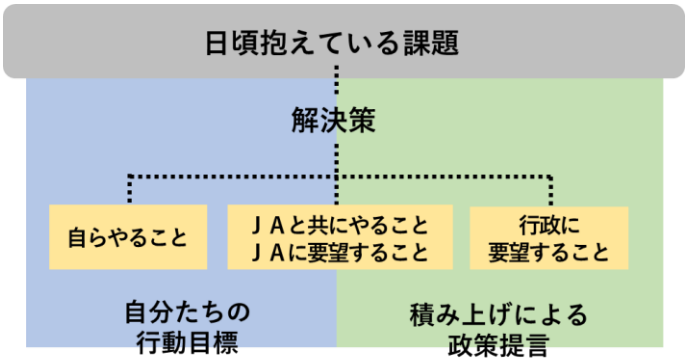


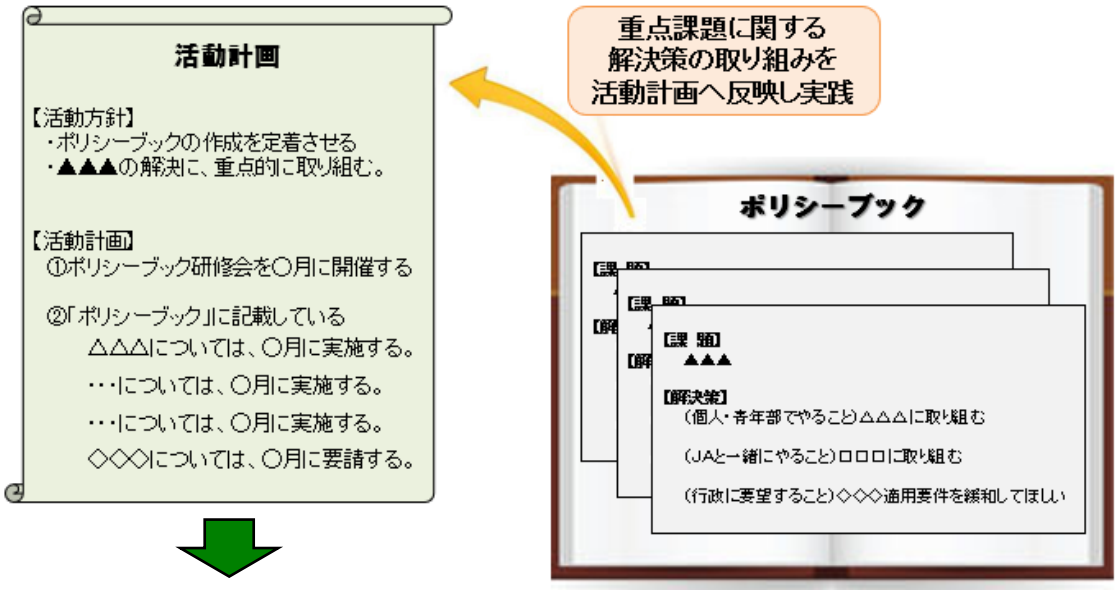

図 1. PBの二面性

作っておしまいにせず活用、次のページへ！

# Ⅲ. ポリシーブック～「作成」したら「活用」へ～

（活用とは）

①作成したPBを活動計画に反映させ、活動日程に落とし込んでいる。
②活動日程にもとづき行動し、総会等で活動報告を行うなど振り返りを行う。
③振り返りにより次年度活動計画策定とPB見直しを行い、活動を継続する。




## 青年部の集まり（全体総会や支部総会）で決定⇒活用へ

**「個人・青年部でやること」「JA と一緒にやること」の実践（活動計画の策定）**

最も大切なのは、自分たちでやると決めたことを実践していくことです。皆さんは総会で決定する「活動計画」に従って1年間活動を行っています。

課題解決のためにポリシーブックでやると決めたことは、しっかり活動計画に盛り込んでいきます。この計画を実践に移していくことで、ポリシーブックに記載された様々な悩みや課題を解決へ導くことができ、ひいては JA 青年組織綱領の実現に繋がっていくのです。

# Ⅳ. ポリシーブック活用のすすめ方

## 1. 活動計画を作ろう

ポリシーブックはあくまで課題と解決策をまとめた「政策提言・行動指針」です。ポリシーブックを動かし課題を解決するためには活動計画を策定することが必要です。

計画策定のポイントは以下のとおりです。

### (1)活動の優先順位を決める。

いっぺんにやろうとすると計画倒れになってしまうので、優先順位を決めて中期計画(3か年)と単年度計画にわけるなど、整理してみましょう。

活動計画シート（例）

| | | 活動計画 | |
|---|---|---|---|
| 青年組織綱領 | ポリシーブック | 中期活動目標（３か年） | 活動計画（単年度） |
| | （解決策） | （基本項目）<br><br>（目標達成に向けた取り組み）<br><br>（そのために必要な活動） | （必要な活動） |

### (2)活動計画は、①項目建てと②箇条書き、で端的にわかりやすく作る。

活動計画(例)

**Ⅰ活動計画**

（１）組織強化活動

□□①未加入者への加入促進および世代交代を行い、青壮年部組織の拡大・強化を図る。

□□②盟友の意志をJAの事業運営並びに地域農業振興に反映させるため、ＪＡ常勤役員との懇談会を開催する。

（２）営農活動

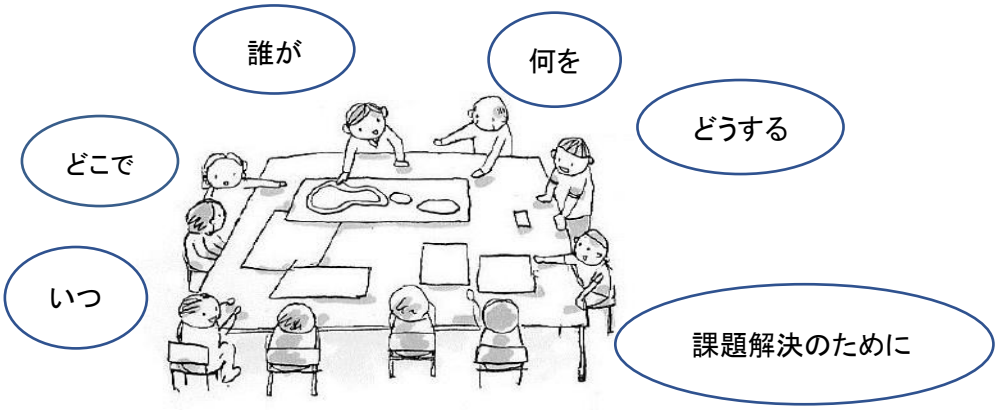
□□①様々な内容を題材にし、青壮年部盟友の学習・自己研鑽の場とすることを目的に研修会等を開催する。

□□②盟友相互の交流を通じて、農業技術の高揚を図る。

（３）地域振興活動

地元農畜産物のＰＲを目的とした各種イベントや地域住民を巻き込んだ食農教育活動を実施するなど、一般消費者との交流を図る。

### (3)活動日程・スケジュールをつくって、5W1Hを明確にする。




活動日程表(例)

| 日程 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 6 月 1 日 | 地域振興活動 | 出前授業 |
| 6 月 15 日 | 営農活動 | 鳥獣害対策勉強会 |
| 9 月 1 日 | 営農活動 | 行政補助金制度勉強会 |
| 9 月 15 日 | 地域振興活動 | 秋祭りに出展 |
| 12 月 1 日 | 組織強化活動 | 農政報告　意見交換会 |
| 12 月 15 日 | 組織強化活動 | JA 役員との意見交換 |
| ・・・・・ | ・・・・ | ・・・・ |

## 2. 総会等で決定し、実行へ

総会等で決定した活動計画・スケジュール表に従い、実行する。

解決するまで言い続ける、行動し続けることが大事

(例えば要請活動)
途中であきらめてしまうと、相手には課題として認識されない。
毎年言い続ければ検討課題になる。

## 3. 活動した後は、しっかり振り返ろう。

### （1）振り返り、チェックの重要性

①反省・総括・評価はつらい、めんどうくさいかもしれませんが・

（ダメ出し、責任追及、批判）

②この活動の仕方でいいの？そもそも何でやっているんだっけ？

そんな問いかけが大事です。

③チェックをやめてしまうと、活動がやりっぱなしになる。活動が改善されずにマンネリになります。そのうち組織活動の停滞にもつながってしまいます。「達成度はどのくらいか」「できたこと、良かった点」「不足していたこと、悪かった点」等を整理してください。

④以下のようなチェックシートを使い、振り返りと進捗管理を行う。

チェックシート（例）

| 1年目 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P（計画づくり） | | | | | D（実行） | C（チェック・評価） | |
| いつ | どこで | 誰が | 何を | どのように | 進捗状況 | チェック・評価（達成度・効果） | その他意見 |
| | | | | | | （達成度はどのくらい）<br><br>（できたことは何か）<br><br>（不足していたことは何か） | |

### （2）次の総会等で活動報告を行う。

振り返りを整理したら、次の総会等で報告しましょう。

報告によりどんな活動を行ったか、どんな課題があったか、どのように改善したらいいか、みんなで共有することができます。

（活動報告　例）

Ⅰ．活動報告

（１）組織強化活動

①実施内容

②成果と課題

③改善と対応方向

（２）営農活動

①実施内容

②成果と課題

③改善と対応方向

## 4. 次年度のポリシーブックと活動計画を作成する。

### (1)「3. 振り返り」をふまえた改善策⇒あらためて「1. 活動計画」をつくる。

振り返り・チェックをふまえてどのような改善策を作るかは、次年度の活動計画づくりそのものです。つながりがわかるように、以下のようなシート(例)を参考にあらためて「1. 活動計画」づくり、さらにはポリシーブックの見直しを行ってみてください。

改善案の策定⇒次の活動計画　(例)

| | | | 1年目 | 2年目 |
|---|---|---|---|---|
| D (実行) | C (チェック・評価) | | A (アクション・改善) ー P (次の活動計画) | D (実行) |
| 進捗状況 | チェック・評価 (達成度・効果) | その他意見 | 改善策 | 進捗状況 |
| | (達成度はどのくらい)<br><br>(できたことは何か)<br><br>(不足していたことは何か) | | (次年度活動計画への反映)<br><br>(ポリシーブックの見直し) | |

### (2)引き継ぎをしっかり行う。

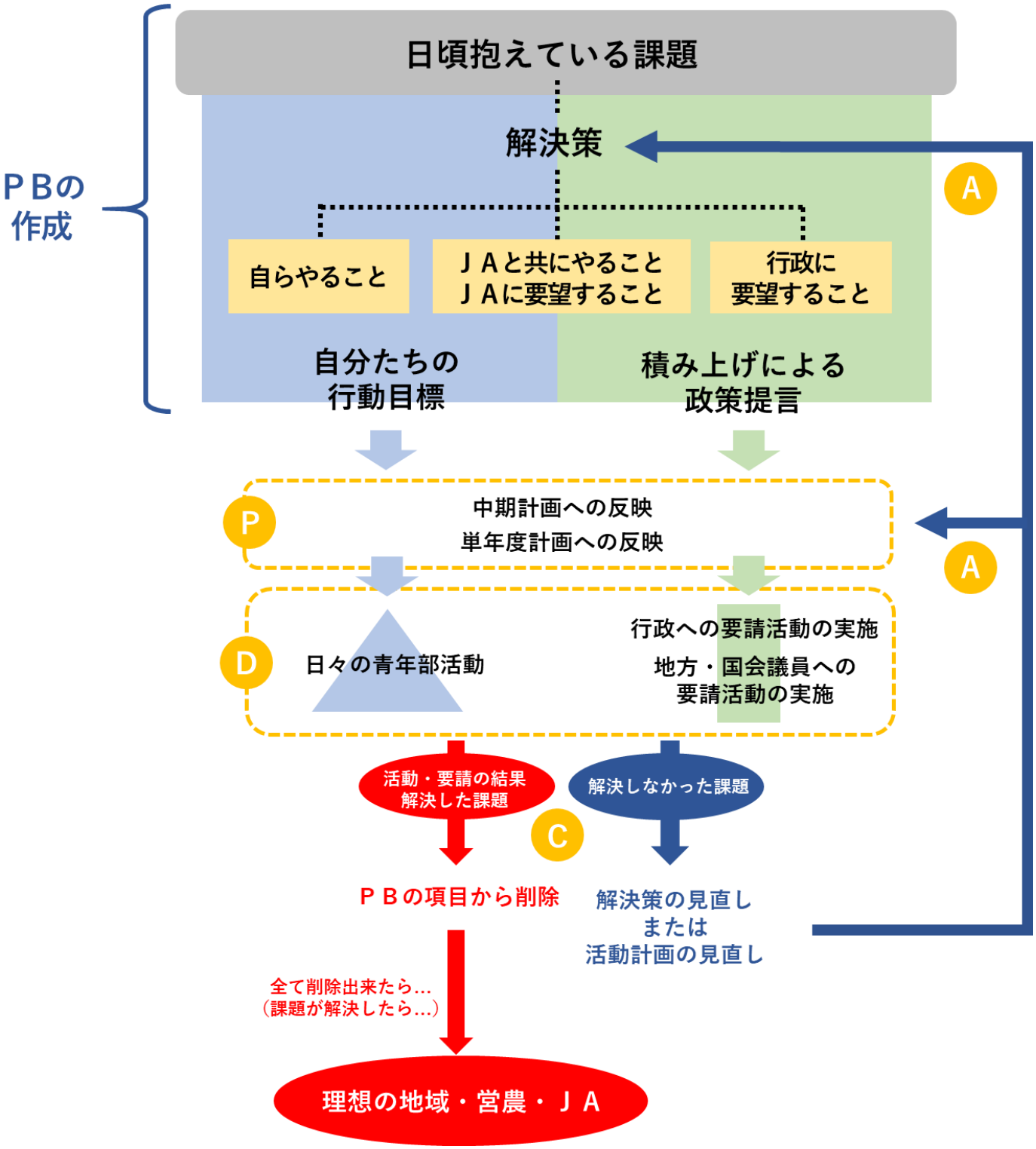
執行部が交代すると、前年度の活動やよかった点・悪かった点が引き継がれず、ゼロからスタートしてしまうことがよくあります。上記のシート(例)のように前年度とのつながりがわかるようにしておくなど、活動の継続や蓄積を意識して引き継ぎを行ってください。

## まとめ. 1～4を PDCA であらわすと・・・・・

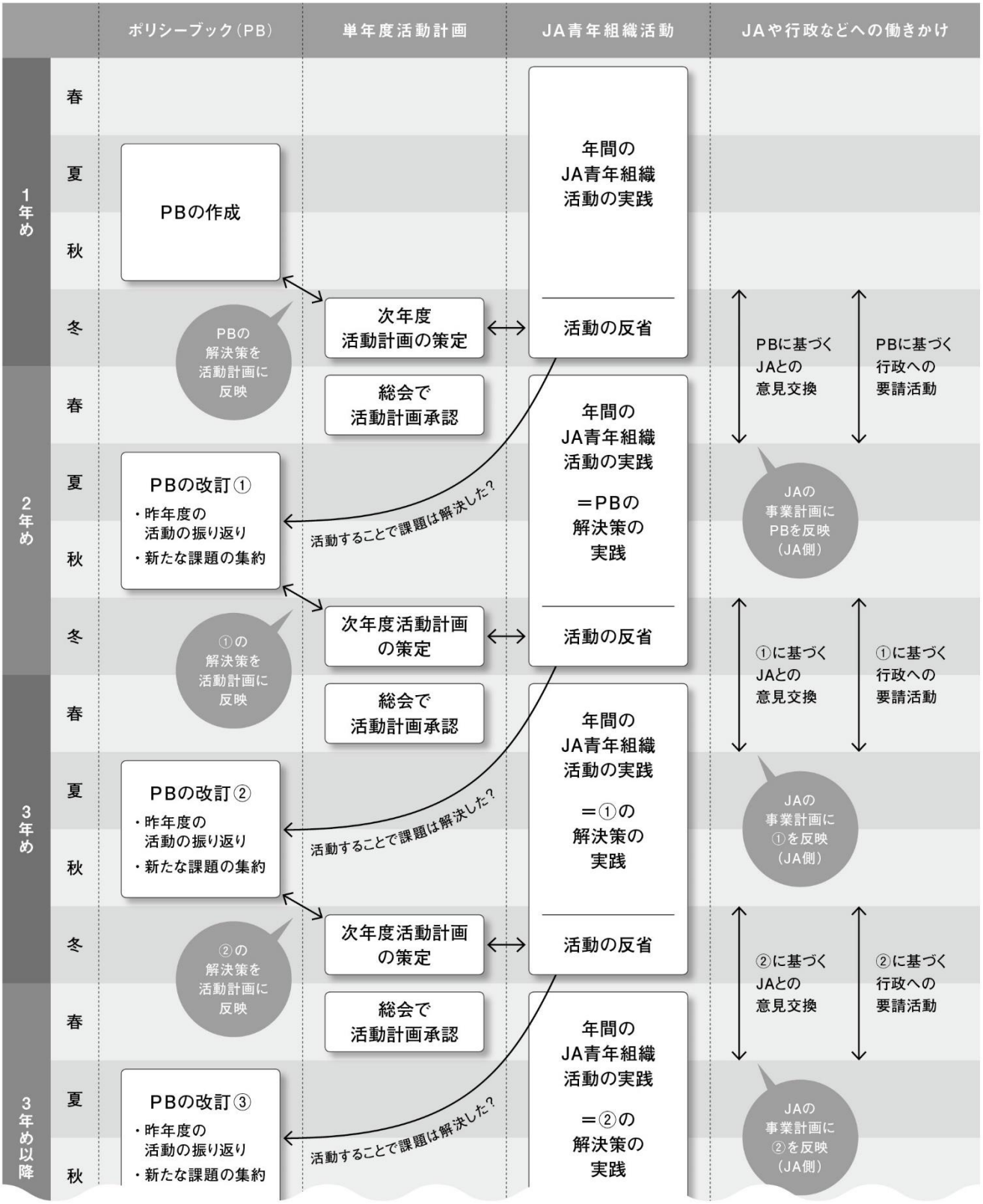
1. ポリシーブックを作成し、これを活動計画と活動スケジュールに反映し、総会等で決定するプロセスが(PLAN)になります。
2. 総会等で決定したら、あとは実践です。これが(DO)にあたります。
3. 実践してもやりっぱなしではいけません。よかった点、悪かった点を整理して次の総会等で活動報告を行い、活動を振り返ってみましょう。これが(CHECK)にあたります。
4. 活動を振り返った結果、改善や見直しがあるはずです。ポリシーブックを改訂したり次の活動計画を作成することが(ACT)にあたります。
5. 以上の PDCA、「計画してみて、やってみて、振り返って、改善して、また新しい計画を作って・・・、」繰り返し継続し、活動を発展させていくことを「PDCA サイクルを回す」と言います。

(図1参照)

図1. ポリシーブック作成～活用フロー（イメージ）



# ポリシーブック作成・活用のスケジュール例




出展：『地上』４月号より

JA青年組織では、1年の活動の振り返りを行い、次年度の活動計画を策定しますが、併せて活動がポリシーブックの解決策となっているかどうかを点検することがポイントです。ポリシーブックの改訂では、前年度の活動を振り返り、課題が解決したかどうか、課題が解決していない場合は、そもそも課題の設定や解決策が適切だったのかを考えてみる必要があるでしょう